



てらる



2021年
5月
No.881

■発行所 ■ 日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>

■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教「喜び祝う神」

日本福音ルーテル教会牧師 佐藤和宏

「どうか、主の栄光がとこしえに続くように。／主が御自分の業を喜び祝われるように。」
(詩編104編31節)

各個教会規則(雛型)第3条には、教会の目的が次のように規定されています。

「この教会は、キリストの命に従って、信仰の交わりをなし、福音の宣べ伝え、みことばを教え、愛による奉仕をなし、これらることによって神に仕えることを目的とする。」

教会はキリストの命じられたことに従って、伝道をし、教え、人々に奉仕をするのですが、それらはすべて神に仕えるためである、というのです。私はこの「教会の目的」の大切さを共有するため、毎年教会宣教計画の冒頭に、前提として明記することにしてあります。教会が教会であるために、その目的を見誤ってはならないと思うからです。

教会の宣教と聞くと、私たちが人数や財政といった結果に目を奪われてしまうことがあります。いかに人が増えたか、経済的にどうかなど、これらを宣教の成果としてしまふのです。しかし大切なことは、目的なのだと思います。私たちのなす業がいかに乏しく、成果がみえなくとも、それが神に仕えるとの目的に沿う限り、それは尊いのです。反対に、私たちのなす業がどれほど効果的にみえ、人の目に輝いて映つたとしても、神に仕えることを忘れていたら、それは虚しいのです。いずれにしても、私たちが先の教会の目的から知らなければならぬのは、教会は内に向かうものではなく、外に向けて働くもの

であるということ。すべての人々に仕えることを通して、神に仕える。これが教会なのではないでしょうか。

聖霊降臨を指して「教会の誕生日」と言われることがありますが、それは聖霊降臨の場面(使徒言行録2章)に、教会が教会であるために欠かせない要素が示されているからにちがいません。それは「一同が一つになって集まる(1節)」、「霊(霊が一人一人の上にとどま(3節)」、「霊が語らせる(4節)」の三つです。「霊が語らせる(4節)」というところが、宣教師は人から出るものではなく、聖霊によることとです。たとえ無力に思われても、聖霊が語らせるままに話し出す、これが教会なのです。そしてそのために、「(霊が)一人一人の上にとどまった」のでした。それは一人一人の違った個性が、それぞれに大切にされているというこ



「改訂共通聖書日課(RCL)」によると、ペンテコステには詩編104編24節以下が選ばれています。31節に「どうか、主の栄光がとこしえに続くように。／主が御自分の業を喜び祝われるように」とありました。

「主が御自分の業を喜び祝われるように」とは、御自分の業である私たちが含めたすべての被造物を喜び祝われるということなのでしょう。「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」(創世記1章31節)という場面を思い出します。

私たちが神に喜び祝われるようになるのは、私たちの努力によるのではなく、私たちの努力に立つからでもありません。ただ、私たちがキリストの名のもとに違いを認め合つて二つとき、植えられたそれぞれ地に於いて、ただ神に仕えるために人々に向かつて、宣教の業に励むようにと、聖霊が注がれたことによるのです。すべて神の御業によって、私たちは教会とされて生きるのです。神はそのような私たちを、ご自分の業として、喜び祝われるのです。

「主が御自分の業を喜び祝われるように」とは、御自分の業である私たちが含めたすべての被造物を喜び祝われるということなのでしょう。「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」(創世記1章31節)という場面を思い出します。私たちが神に喜び祝われるようになるのは、私たちの努力によるのではなく、私たちの努力に立つからでもありません。ただ、私たちがキリストの名のもとに違いを認め合つて二つとき、植えられたそれぞれ地に於いて、ただ神に仕えるために人々に向かつて、宣教の業に励むようにと、聖霊が注がれたことによるのです。すべて神の御業によって、私たちは教会とされて生きるのです。神はそのような私たちを、ご自分の業として、喜び祝われるのです。



伊藤奈奈

⑭ 生かされる

「主なる神は、土アダムを塵で人アダムを形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創世記2:7)

「この子生きてるのよ。この呼吸器止めたら死んでしまうの。」

生きて何だろう。そんなことを考えさせられました。この言葉を母さんから聞いたのは私もその人も入院している時でした。その人に初めてお会いした入院から3カ月で車椅子に乗っておられた状態からあつという間にベッドに寝たきりになり、呼吸器をつけないと息ができなくなりました。

おられ、昨年のコラムでも登場されておられます。

生きて何でしょう。息を吸うこと。笑ったり泣いたり怒ったりする。どう歩く。どう空気が無くなつたら生きられない。喜怒哀楽の感情は運動能力は私と同じ病気がわかつたばかりの方が自分で歩けなければ人間じゃないって言うていたことを思い出します。生きてということと人間であるということも違うような気がします。この病気がいいとかあの病気が嫌とか、あの姿はいいけどこれはダメとか。それらは体誰が決めるのでしょうか。

こんな言葉も聞いたことがあります。「生きていけばいいのよ。自分の家族がほとんど何も食べられなくなり、眠っておられることが多い方のことを言うておられました。神様にとっては、あなたは家族。そのまま生きていていいんだよ」と言われます。

全国ルーテル青年オンライン合宿

No Youth. No Church

2021/02/26~27

詳しくは4面で

全国ルーテル青年オンライン合宿報告



議長室から 大塚 謙治

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。」(ヨハネ福音書3・8)

蔵が描かれたことがありました(原作・吉川英治 2003年NHK)。史実かフィクションかは定かではありませんが、私には忘れられない一場面があります。若い頃の彼は大変な狼藉者で、有り余るエネ

の敗北。茫然自失した武蔵に石舟斎はこう問うのです。「お前は風のそよぎを感じたか。鳥の声、せせらぎの音が聞こえたか。武蔵はハッとします。言われてみれば確かに周囲には風がそよぎ、土が香り、

へのコペルニクスの転換を促す声でした。そこから彼はやがて「剣聖」と呼ばれる至高の歩みを成し遂げてゆくことになりました。このエピソードは私たちに、内に閉ざされた自己完結的な生を超えた外に向かつて開かれた対話的な生の次元を教

周囲が見えなくなることで、少なからずあります。そのような時には五感を開いて周囲の世界を感じてみる。するとそれまでとは違った視点が与えられ、見えなかつた次元が見えてくること

ルギーを持て余し、「武者修行」と称しては道場破りを繰り返している。ある時は彼が藤田まこと演ずる新陰流・柳生石舟斎の道場を訪ねます。相手に果敢に挑みかかつてはゆくものの素手の石舟斎に全く敵わず、完膚なきまで

鳥の声や水の音がしている。しかし自分は相手を打ち負かすことばかり考えていて、外界で起こっていることを何も感じていなかったことに気づく。それは打ち砕かれた武蔵にとつてモノローグ的な生からダイアローグ的な生

20世紀中葉に行われた第二バチカン公会議でカトリック教会は、信徒が聖書により親しめるようにとミサの大改革を行い、旧約使徒書、福音書の三つの聖書朗読からなる「3年周期聖書日課」が誕生しました。3年周期とは共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ福音書)を毎年ひとつずつ繰り返して読むためのサイクルです。

たが、Cと比べると三つの聖書テキストがより関連づけられているのを、説教しながら感じています。聖書日課があることで、キリストの生涯を一年かけて追体験できます。礼拝で朗読される毎週のみことばが系統的につながっているの、みことばを聴きながら神の救いの歴史を辿ることが出来ます。また世界各地の主要教派がRCLを採用していること

「教会讃美歌 増補」解説



①讃美歌委員からの声(6)

日本ルーテル教会 教会讃美歌委員

井上栄子 (戸塚ルーテル教会)

「新しい賛美歌を歌えて楽しいですよ」「仕上げの段階なので一年弱しかないが、一緒にやりませんか?」というお誘いでした。私にできる事があるなら、と気軽にメンバーに加えていただきました。しかし、予想外の大役に慄

き、末席を汚しながら4年(2021年3月末現在)が経ちました。作業も第五稿に迫り着き、次回出版社からデータではなく、冊子として整った形で、第六稿の校正が出来ると運びとなりました。

私の入会時、既に試用版(パイロット)版が活用されておりました。が、継続的作業として、候補として挙げられていた230余りの曲を分類別に再度整理し、原譜、原歌詞、伴奏譜の資料を集め、作曲家、作詞者の情報、引用聖句を調べました。日本語以外の詩は音符の数に

合わせて日本語に訳し(この作業に相当な時間を費やしました)、伴奏譜の無い曲には伴奏を作曲し、現代曲にはコードを付けました。原稿が出来上がつて、レイアウトの細部に気を配り(音符の棒や付点の方向や位置、歌詞の誤字脱字、フォントなどのバランス)、赤ペ

Cでの莫大な資料整理の達人。Zoom使用前には、各地方からの参加者とのスカイプ会議の算段。あらゆる情報を、幅広い知識や様々な手段で練り出す専門家。初見奏(唱)も即興演奏も万端な演奏者等々。また会議の場には居られずとも、快く相談に乗って下さった方々の存在。沢山の背後の祈りと協力。小さな地方教会の一信徒である私には、作業の一瞬一瞬が驚きと感動の連続でした。この長く繊細な作業を、ここまでお導き下さった神に感謝します。

私たちの礼拝

式文ハンドブック

⑩聖書日課

浅野直樹 Sr. (市ヶ谷・スオミ教会牧師)

聖書朗読は礼拝において欠かせませんが、どの箇所を讀んで礼拝すればよ

いのか、毎週の礼拝でどういう順番で読み進めたいのかという悩みは、教会が誕生した初期からありました。そこで朗読箇所を配分して利用するための方法として、聖書日課が考案されました。恣意的に偏らず、神の言葉全体を年間を通して満遍なく聴けるようにと工夫した結果が聖書日課だといえます。旧約聖書しかなかった時代は旧約のみの利用でしたが、2世紀になると使徒書が、さらには福音書が使われ、5世紀頃になると、時宜に合った特定の聖書箇所を讀むという伝統へと発展していきます。

その後も改訂作業は続き1992年、北米15教会の合同作業で、「改訂共通聖書日課 (Revised Common Lectionary, 略してRCL)」が完成し、今日多くの主要教派がこれを用いています。私たちの教会でも2020年から教会手帳に正規採用され、礼拝での利用が広がりました。筆者の教会でも昨年

2021年度のルーテル学院大学・日本ルーテル神学校が新年度へと歩み出しました。2021年度のルーテル学院大学・日本ルーテル神学校は、ルーテル学院大学総合人間学部01名(編入生を含む)、大学院7名(編入生を含む)の4名の新生を迎えてスタートしました。神学校の牧師養成コースの新生は眞我純さん(JELC三鷹教会)、ネルソン・デービッドさん(JELC本郷教会)、大和友子さん(JELC大岡山教会)の3名です。また神学一般コースに1名の新生を迎えました。4月2日(日)には、河田慶太郎(神学校入学者)と対面を組む面の間オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド方式によって行われます。(本報室)

パンデミックの中のダイヤモンド



社会福祉法人サマリヤ

理事長 兼 間道子
(高松教会)

調査団や専門職が入り、しばらくは物々しい状況でした。が、現在は終息しています。

「学び」は職員一丸となつて足並み揃えて取り組まなければ成果は望めません。当法人でも、同様にできる、限りを尽くして対策に邁進しているところです。

感染者が150名を超えた施設については、利用者や職員が通常業務に加えて大勢の知恵と言動で乗り越え終息したと伺います。元の状態に戻ったものの、日常を取り戻すには、まだ時間を要するので安心できない状況のようです。

最近では、動画配信

など特に病院介護等の

新人教育には一定レベルのスキルを求めています。今後は、さらなるスキルアップのために現場研修に加えて、画面をと

おして視聴できるシステムも出回っています。このことも啓発したいと考えています。操作方法

がわからない職員にはこれを機会に、分かる職員に尋ねてITに慣れても

ら牧師を招聘することができないのです。ロシアからもできません。ベラルーシ国内にある諸外国のルーテル教会との協約も結べ

ません。そのうえ財政支援や物的支援といったいかなる援助も、必ず届け出なくてはなりません。ですから支援を受けとるにしても制限されています。海外の兄弟姉妹が光熱費を支援してくださっても、そのうち18%は税金でもつていかれます。またコンサートのように礼拝以外の活動は、市の許可が必要になります。」

「大半の信徒はベラルーシ国籍の人たちで、宗教改革に関心をもつ人々がルーテル教会に集っています。ドイツ、エストニア、フィンランドのルーテル教会もあります。ロシアや諸外国の福音ルーテル連盟とは、霊的に結ばれていると感じています。そうしたつながりを通してLWFと関わっています。」

「ベラルーシ国内のルーテル教会の組織について教えてください。」

「ベラルーシで私が唯一のルーテル教会の牧師です。ほかに2名の助祭がグロドノとビテプスクにいます。ゆつくりとではあります。もつと多くの教会が今後出ていく見通しをもっています。」

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励まし

の言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

ブックレビュー

コロナ禍で、ルターから学ぶ—『ルター研究』17巻(特集・宗教改革と疫病)紹介
江口再起 (ルター研究所 所長)

ありませんでしたが、今回、原典ドイツ語から全文が翻訳されています。書簡ですから、内容は決して難しいものではないと思います。しかし、恐ろしく深い。大変、正確でわかりやすい訳文になっています。

江口再起「コロナー人類・ルター・教会」は、私たち人類にとって、今回のコロナ・パンデミックは何を意味するのか、またルターから何を学ぶのか、そして教会はどうあるべきかを論じ、「世の光・地の塩」をその結論としています。

宮本新「ルターの『ペスト書簡』を読む」は、まさにそのルターの書簡をめぐっての論文です。教会の指導者として牧師としてのルターが、ペストの不安の中を生きている人々に、生きる原点である「信仰と愛」を力強くまた深々と説いています。そして実に具体的なアドバイスをしています。その理由を論じています。それは一人一人がみな神から務めを託されている(召命)ゆえだと論じられています。

最後にコロナ特集とは別ですが、石居基夫「ルターの『三重の秩序と立場の教え(Drei Stände Lehre)』と教会の宣教」が収録されています。内容は、ルターの社会理論の二つの柱の一つ、いわゆる「三機関説」を論じたものです(もう一つの柱は「二王国論」です)。従来、わが国ではほとんど論じられてこなかったテーマであり、貴重な論考です。どうぞ読みください。

立山忠浩「まことの礼拝」を考える—新型コロナウィルス禍の産物」は、今回のコロナ禍にあつて、今までのように礼拝に出席できなくなつたという事態を背景に礼拝のあり方を論じた論文です。改めて「まことの礼拝」(ヨハネ福音書4:23)とは何かを問題にしています。

「ご希望の方は、ルーテル学院大学・神学校 後援会事務局 電話 0422(3)4611まで。定価2千円+送料。」



世界の教会の声

浅野直樹 Sr.
(世界宣教主事
市ヶ谷・スオミ教会牧師)

ベラルーシの牧師、支援と祈りに感謝②

「教会と政権との関係について現状はどうですか。」

「グロドノ市長とは今のところ良好です。しかしながら国レベルで様々な障害があり、たとえば私たちの教会は小さすぎるため、法的には教会として認められて

いません。そのため海外から牧師を招聘することができないのです。ロシアからもできません。ベラルーシ国内にある諸外国のルーテル教会との協約も結べ

ません。そのうえ財政支援や物的支援といったいかなる援助も、必ず届け出なくてはなりません。ですから支援を受けとるにしても制限されています。海外の兄弟姉妹が光熱費を支援してくださっても、そのうち18%は税金でもつていかれます。またコンサートのように礼拝以外の活動は、市の許可が必要になります。」

「大半の信徒はベラルーシ国籍の人たちで、宗教改革に関心をもつ人々がルーテル教会に集っています。ドイツ、エストニア、フィンランドのルーテル教会もあります。ロシアや諸外国の福音ルーテル連盟とは、霊的に結ばれていると感じています。そうしたつながりを通してLWFと関わっています。」

「ベラルーシ国内のルーテル教会の組織について教えてください。」

「ベラルーシで私が唯一のルーテル教会の牧師です。ほかに2名の助祭がグロドノとビテプスクにいます。ゆつくりとではあります。もつと多くの教会が今後出ていく見通しをもっています。」

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

「御教会にとってLWFに つながることの意義は何でしょうか」

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメール、メッセージで多くの励ましの言葉をいただいています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。」

「今ベラルーシは、三つの危機を同時に抱え込んでいます。経済危機、政治危機、そしてコロナウイルスです。今後どうなっていくのかわかりません。6カ月前の2020年8月時点で

は、だれもこのような事態を想像できませんでした。世界のルーテル教会からのお支えが、私たちにとって力となります。私たちは小さな教会です。しかしながら祈られていることを感じます。私たちの教会を通してベラルーシ市民を助けてくださる方々に、精一杯の感謝を申し上げます。」(ア)

第7次総合方略の紹介(1)

事務局長 滝田浩之

第13回常議員会において、2022年に提案される「第7次総合方略」についてご紹介をしていくこととなりました。

これまで総合方略は、委員会が草案をまとめ、教区常議員会、本教会常議員会において整理されて総会に提案され、という段取りで承認されて実行されてきました。組織としては間違っていない手続きだと思えます。

はじめに 本文・歴史的背景・過去の方策(第1次〜第6次まで) 戦後のキリスト教ブームの時代は、いずれの教会の礼拝堂も人があふれていた。日本福音ルーテル教会も同様である。その時代に信仰をもった方々の献身的な働き、献財によって今日の教会の基礎が出来たと、言って過言ではない。

1969年のアスマラ宣言によって、私たちの教会は第一予算(個々の教会の財政)の自給に舵を切った。第1次から第4次までこれを実現するために「総体としての自立」を求めて総合方略が立てられた。この「総体としての自立」は、戦争を経験した教会がそうであつたように「生き残ればよい」というサバイバルではなく、「二つの教会」として総体として自立して宣教することを選び取った。この方策は、日本経済が右肩上がりであり、進む社会背景に支えられて、特別協力金制度を生み出しながら、教区自給を実現する。

しかし教会の経済的自給については、ある一定の結果を出しつつ、個々の教会の教勢は思うような成長を果たすことができなかった。そのため第5次にあたる方策「パワーミッション21」は、その目的を明確に個々の教会の教勢の右肩上がりを目指すべく、資産を宣教活動に、いわば本教会に集中し個々の教会の宣教の梃入れを目指した。

だが、この資産注力を支えてきた海外の教会は2003年、協力教会とのスタンス(姿勢・立場)を歴史的に大きく転換した。それは支援から同伴する関係への変化であつた。これにより、すべての会計において海外からの支援は終結し、日本福音ルーテル教会は、ある意味ではすべての面において自給を余儀なくされることとなつた。

第5次総合方略の後半から、教会は資金投下による本教会主導の宣教活動の活性化を目指すという方針から転換し、経済的自給を維持するためにするため、本教会宣教活動のプログラム化、年金制度の改革を実施することとなつた。第6次総合方略は第5次総合方略の重要な課題は継承しつつ、特に宗教改革500年事業を中心に様々な取

り組みを実施し、ルーテル教会のアイデンティティー(主体性)を改めて確認する役割を果たした。本総合方略は、この「歴史的背景」を踏まえつつ経済的自給から、一歩進めて、宣教的自立を目指すものである。

解説 日本福音ルーテル教会は、その教会の自立と自給という決意をした後、第1〜6次まで総合方略を策定してきました。その時代、その時代に必要課題を、確認してきたのです。 ここで重要なことは、「第7次総合方略」は、この歴史の上に立っているという事実です。そして見失ってはならないのは、私たちは福音宣教に絶望してはいないということです。 み言葉の説教と聖礼典の執行という、イエスの使命に立つ教会であることを誇りに思い、この使命を引継ぎ、この使命を引き継ぎ果たしたいと考えています。

しかし、私たちは今、COVID-19を経験し、キリスト教の歴史上、ある意味では初めて隣人のために公開の礼拝を閉じるという経験をしています。このような経験をしている教会として、総会に提案する前に広く、会員の方に、この内容を周知し、そして意見や思いを分かち合う時間を取ることは有意義なことだと考えます。しばらく「るうてる誌」の紙面をお借りして、その内容についてご紹介して参ります。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

社会委員会「入管法改悪を考える緊急学習会」報告

小泉基 (社会委員会委員長・函館教会牧師)

4月6日、社会委員会主催の「入管法改悪を考える緊急学習会」が、委員会主催の学習会として、はじめてオンラインで開催されました。出入国管理法の改訂案は、

今年の2月に閣議決定され、4月に審議入りするといわれています。この改訂案では、それが3回目以上であれば、難民申請を行っていない最中であつても強制送還を可能にし、母国に帰国できない事情を抱えている外国人住民に、強制送還拒否罪を新設するなど、日本で暮らす弱い立場の外国人住民を困窮させ、その希望を打ち砕く内容になっていきます。委員会では、

は、マイノリティー宣教センターなどが呼びかけた「難民申請者を追放する『出入国管理及び難民認定法』の改悪に反対する教会共同声明」に委員として賛同するなど、教派を越えた反対運動につながってまいりましたが、法案自体についてもさらなる理解を深めようと、この度緊急に学習会を企画しました。学習会では、入管施設の問題性を問うテレビドキュメンタリーをみんな

で視聴した後、改訂案の問題点を学び、それぞれが置かれた立場からの感想を出しあつて意見交換をしました。さらに学びを深めたいという参加者の声に、応えて、委員会では5月中にも2回目の学習会を計画しています。今回は、緊急開催出来ないままでしたが、次回はいよいよ多くの人に参加していただけるよう、丁寧な呼びかけを行っていきたいと思います。

青年の責任による青年のための全ルーテル青年オンライン合宿が開催されました！

森樹市々教区

全国のルーテル教会に集う35歳以下の青年を対象とした青年合宿が、2021年2月26〜27日にオンラインにて開催され、全教区から、また国を超えて、さらには教派も超えて、総勢50名が参加しました。

この合宿を通して、青年が神様との関係を振り返り、教会活動により「層」つながりかけとなれば幸いです。以下、参加者からの感想を掲載致します。

森樹市々教区 下村翔吾 コロナ禍により、様々な事を見つめ直す機会を神様から与えられたのかもしれないと感じています。その中の一つが今回の合宿のテーマである教会でした。強制的に人と人との繋がりが切り離されているこの状況だからこそ、教会に普通に集い、祈りを共にすること、どれ程の恵みであつたのか、また、普通に集えていたときから、人と人との心の繋がりが、また神様との繋がりが、私たちの中で知らず知らずのうちに薄れていたのかもしれないというのを再確認する機会となりました。合宿を通して「教会」とは「神様と自分の繋がりにあり、そこから自分と他者との繋がりの中へ向かうこと」だと私は考えまし

た。自らの信仰、これからの行動を見つめるよき交わり、学びの場となりました。箱崎教会 深町創太 私にとって今回の合宿は、普段接点のないルーテルの青年達と交わる凄く貴重な体験でした。教派は違えども、それと関係なしに色々なことが学べてよかったです。私は小さい頃から教会学校に通っていたため、幼なじみがたくさんいたため、教会の人達もみんな仲良くしてくれそうです。今回の合宿を通して、そんな人達を改めて大事にしたいなと思いが、また今回のような機会があればまた参加してみたいと思います。(日本基督教団 五軒邸教会・木原有恵)